後記

○本号は、四名の専任教員による論稿、および非常勤講師による教育実践報告で構成される。また、二冊の新刊を紹介する。

○本年度の国文学大会は、彙報欄にもあるように、本学科の高山大毅先生、そして学外からは慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授の佐々木孝浩先生をお招きし、ご講演頂いた。日本書誌学の第一線で活躍され、昨年『日本古典書誌学論』を上梓された佐々木先生のご講演は、豊富な画像を駆使し、学生にとって馴染みの薄い和本の世界の魅力を紐解くとともに、書誌学の最前線におけるリテラシーのありようをお教え下さるものであった。和本を書誌的に「読む」ことを通して、本文を読むだけでは決して見えてこない、書物を取り巻く種々の文学的営為を鮮やかに浮かび上がらせていく手さばきは圧巻であった。厚く感謝申し上げたい。なお、高山先生は昨年、『近世日本の「礼楽」と「修辞」――荻生徂徠以後の「接人」の制度構想』（二〇一六）により第三八回サントリー学芸賞を受賞され、本大会が受賞後初のご講演となった。

○昨年度着任の高山先生に引き続き、今年度は新たに平子達也先生をお迎えした。平子先生は言語学、とくにフィールドワークに基づく日本語諸方言の研究を専門としておられる気鋭の研究者であり、本号にもご論をお寄せ頂いた。ご研究のみならず、学科運営や教育面においても、今後新たな視点をもたらして下さることと思う。大変喜ばしいことである。

（K）

編集委員　倉田　容子
　　高山　大毅
　　平子　達也